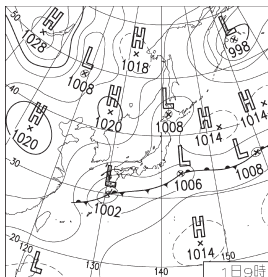


日々の天気図

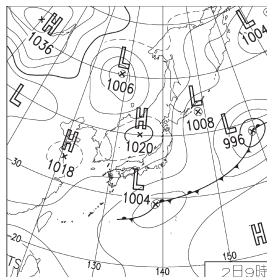
— No. 81

2008年10月

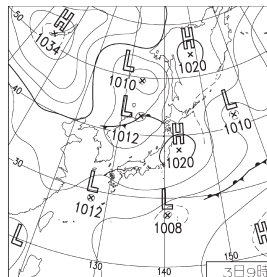
- ・9日、北海道で局地的大雨。千歳市支笏湖畔185 mm、白老郡白老町森野177.5 mmの日降水量。
- ・22日～24日、南北に連なる気圧の谷が通過。各地で日降水量が100 mmを超大雨。24時間で三重県大台町215.5 mm、千葉県君津市191.5 mm、和歌山県串本町180 mmの降水。(気象庁予報部予報課)



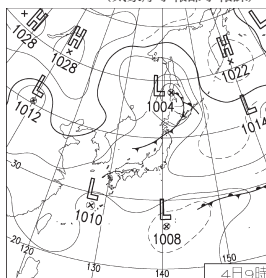
1日(水)西から次第に天気回復
台風第15号は九州の南海上で温帯低気圧に、九州や西～東日本太平洋側の雨も昼に止み、西側の地域から晴れ間が広がる。北日本は寒気を伴った気圧の谷が通過し、雨や雷雨。



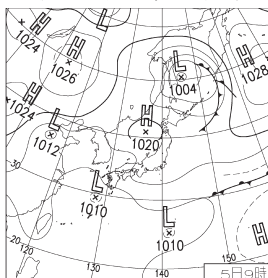
2日(木)東京の空にアキアカネ
日本付近は高気圧に覆われる。北海道東部では所々で曇り、他は全国的に晴れて、朝方は冷え込んだが日中は暖かい一日。稚内市沼川で最低気温-0.6℃。南シナ海で台風第17号発生。



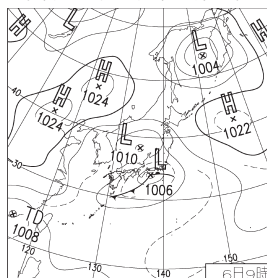
3日(金)本州付近は概ね晴れ
高気圧に覆われた東北～九州北部は概ね晴れ。温暖前線が通過した北海道と低気圧に近い奄美や九州南部・四国の太平洋沿岸は曇りや雨。台風第17号は熱帯低気圧に変わる。



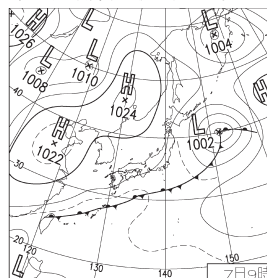
4日(土)北日本と九州南部は雨
北日本は寒冷前線が通過し、にわか雨や雷雨。新潟県で海上竜巻。奄美近海で低気圧がほぼ停滞。周辺の暖湿気の影響で九州南部は所々雨。その他は東海上の高気圧に覆われ晴れ。



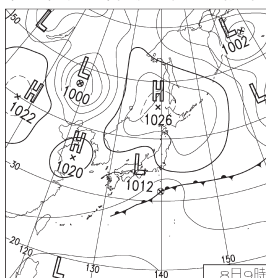
5日(日)雨域ゆっくり東へ
東シナ海に発生した低気圧はゆっくり東進。雨の地域は西日本から東日本まで広がる。北日本も徐々に雲が広がり天気は下り坂。南西諸島は晴れて南大東島の最高気温31.7℃



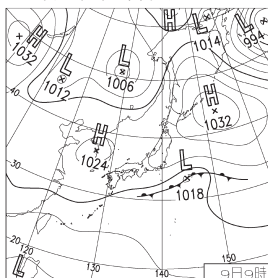
6日(月)西日本は晴れ間戻る
低気圧は本州南岸を東進。午前中は東日本、午後は北日本中心に雨。西日本は日中晴れて暖か。北海道は放射冷却により、朝の最低気温は平年より3～5℃低い。



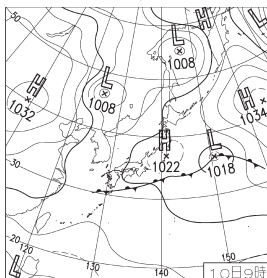
7日(火)伊豆大島で激しい雨
本州の南に前線停滞。夜にかけ活動は活発化。北日本の一部で晴れた他は概ね曇り。前線近傍の太平洋側中心に雨。沖縄県で竜巻。伊豆諸島の大島70 mm/1 hの非常に激しい雨。



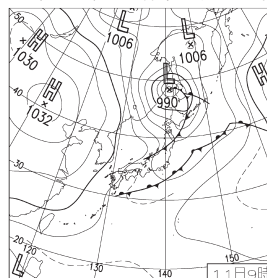
8日(水)関東気温上がらず
日本の南の前線上を低気圧が東進。南西諸島は所々で雨。北日本太平洋側～関東は北海道付近の高気圧から湿った東よりの風が吹いて曇りや雨。他は高気圧に覆われて概ね晴れ。



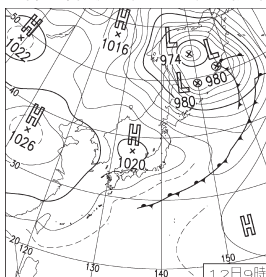
9日(木)北海道で局地的大雨
移動性高気圧が北海道の東海上へ去り北日本は曇り一部で雨。北海道千歳市支笏湖畔64.5 mm/1 hは観測史上1位。朝鮮半島に高気圧。東西日本は概ね晴れて9月中～下旬の気温。



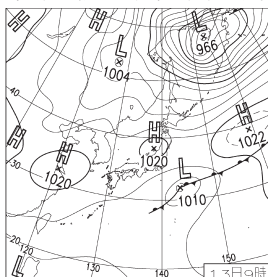
10日(金)天気ゆっくり下り坂
日本の南海上には前線が停滞。南北に連なる大きな気圧の谷が西から接近し、北日本は暖かく湿った空気が流入し大気の状態が不安定。秋田市沖の海上で竜巻が発生。



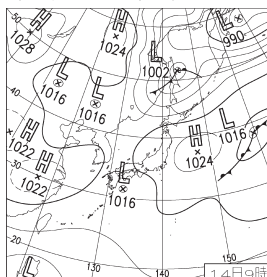
11日(土)北日本 冬型強まる
北～東日本を寒冷前線が通過し、北日本中心に冬型の気圧配置に。日本海側は寒気に伴う筋状の雲が広がる。前線通過後は強い北西風が吹き込み、各地で気温低下。



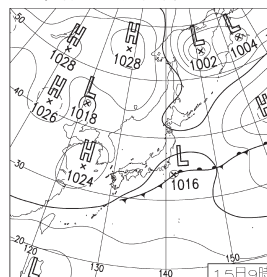
12日(日)四国以北で秋の深まり
冬型の気圧配置の残る北日本の一部や前線近傍の小笠原諸島は雨。列島は高気圧に覆われ晴れや曇り。最高気温は、北海道～四国にかけて平年以下で、長野県諏訪市で3.2℃低い。



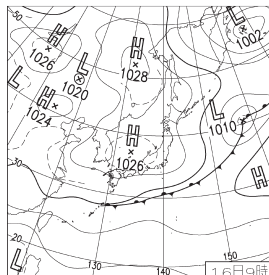
13日(月)穏やかな行楽日和
本州付近は移動性高気圧の通り道。相対的に気圧の谷となった東海～関東や九州南部で午前中曇った他は概ね穏やかな晴天の体育の日。北海道帯広市東4条で初霜・初氷を観測。



14日(火)南岸低気圧の雨
高気圧の中心が日本の東へ抜け、本州の南海上を低気圧が東進。そのため東日本から西日本は雨。沿岸部で雷雨となり、高知県黒潮町佐賀で89 mm/24 hを観測。

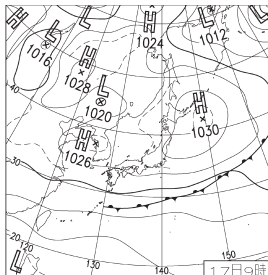


15日(水)山形県で海上竜巻
南海上の低気圧による雨は朝まで。黄海の高気圧に覆われ概ね晴れ。北陸～東北は寒気を伴った気圧の谷が通過。所々で雨や雷雨。北海道の最高気温は平年より3～6℃高い。



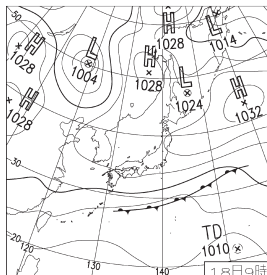
16日(木)さわやかな秋晴れ

九州～北海道は高気圧に覆われ、乾燥した晴天が広がる。一方、前線に近い南西諸島は一部で激しい雨や雷雨。沖縄県国頭村で50 mm/1 h。北海道旭川市で初霜を観測。



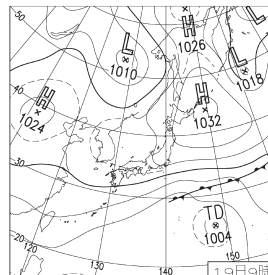
17日(金)北海道旭川市で初氷

日本付近は高気圧に覆われ概ね晴れたが、北海道南部は気圧の谷の通過時に所々雨。近畿太平洋側や四国は湿った空気の流入で曇り。晴れていた東日本以北で夕方から曇り。



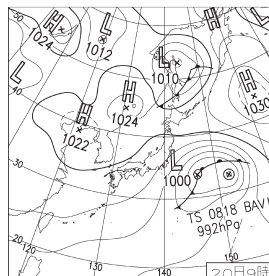
18日(土)本州付近は概ね晴れ

高気圧の南縁に沿う湿った空気が流入した関東や九州南部・奄美の所々で曇りや雨となった他は、引き続き高気圧圏内で概ね晴れ。北海道は気圧の谷が通過して各地で一時雨。



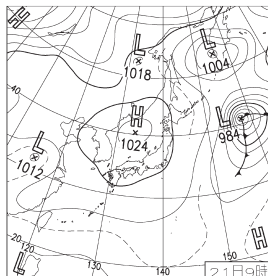
19日(日)台風第18号発生

日本列島は引き続き北海道東海上の高気圧に広く覆われ晴れ、湿った空気の流入した関東地方の一部で曇り。日本の南海上では気圧の傾きが大きく、北東の風が強く波が高い。



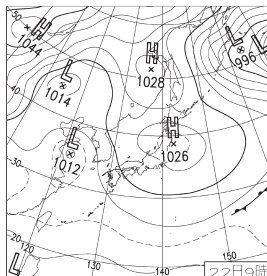
20日(月)台風第18号温低化

本州の東海上を低気圧と台風第18号が北東進。台風は21時に温帯低気圧に変わった。東北、関東の太平洋沿岸にはうねりが到達。九州地方から南西諸島にかけては所々で雷雨。



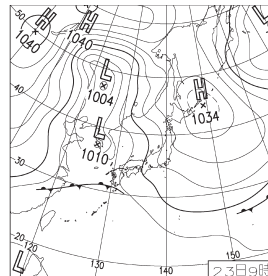
21日(火)九州は汗ばむ陽気

日本付近は移動性高気圧に覆われ、沖縄本島や大東島で雨があった他は全国的に晴れ。九州北部を中心に9月中旬並の陽気で、福岡市の最高気温は平年より6.1°C高い28.2°C。



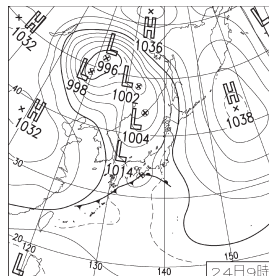
22日(水)西日本から雨

東北を中心を持つ高気圧に覆われた北日本や関東では概ね晴れたが、その他は曇り、西日本から所々雨となる。長崎県新上五島町有川では63.5 mm/1 hの非常に激しい雨。



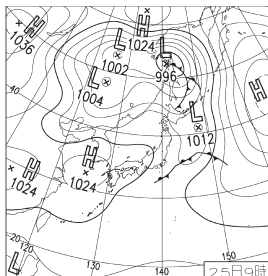
23日(木)本州付近は曇りや雨

千島近海の高気圧に覆われた北海道は概ね晴れ。上空の気圧の谷が通過し、湿った空気が流入した西～東日本や東北は曇りや雨。高知県黒潮町佐賀の75 mm/1 hは観測史上1位。



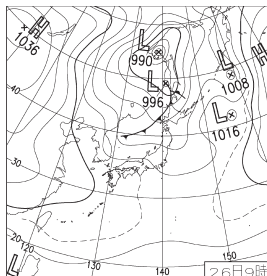
24日(金)三重県志摩市で竜巻

前線を伴った低気圧が本州南岸を通過。一方、日本海北部の低気圧の温暖前線が北海道を通過。北海道や本州で日降水量100 mmを超えた所も、茨城県北茨城市花園142.5 mm/日。



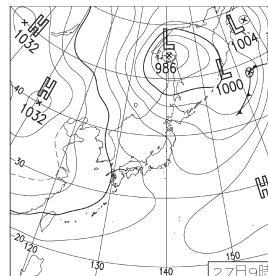
25日(土)高波、釣り人さう

気圧の谷は東へ抜け北海道は晴れたほかは上中層雲に覆われ概ね曇り。新潟県柏崎市で釣り人11名が高波を受け海に転落。救助の消防隊員5名も転落。その後全員救助された。



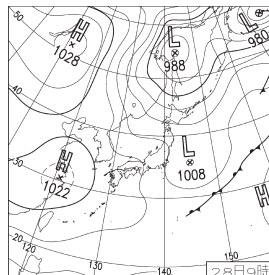
26日(日)東北、北陸で突風雪

北日本を寒冷前線が通過。前線や気圧の谷の影響で全国的に雨の地域が多く、北海道や本州の日本海側では雷を伴って強く降る。南西諸島は概ね晴れ。稚内市で初雪を観測。



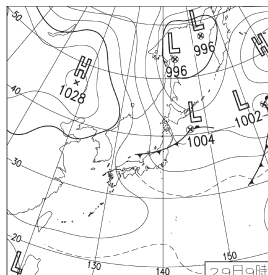
27日(月)千葉県いすみ市で竜巻

寒気流入、北日本～中国でしぐれ。北陸や関東は所により雷雨となり、千葉市で直径5 mmのひょうを観測。北海道手稲山、福島県吾妻山、長野県甲斐駒ヶ岳で初冠雪観測。



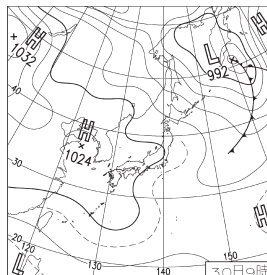
28日(火)冬の便り南下

本州以南は日本海側が寒気の影響でしぐれ他は、西から高気圧に覆われて概ね晴れ。北海道は気圧の谷が通過して曇りや雨または雪。北海道函館市で横津岳の初冠雪を観測。



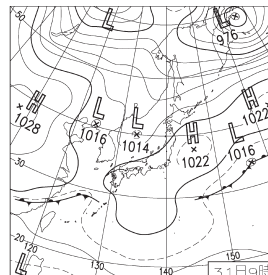
29日(水)旭川で初雪

北日本には寒気が入り、北海道東部の広い範囲で最低気温が氷点下となった。旭川では平年より6日遅い初雪。一方、寒冷前線が本州を通過し、関東の一部でわか雨。



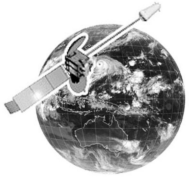
30日(木)冬の訪れ関東北部まで

冬型の気圧配置は緩んだが、北日本の日本海側は曇りや雨の天気。標高の高い所は雪。その他の地方は高気圧に覆われる。群馬県千ノ倉山、白砂山で初冠雪を観測。



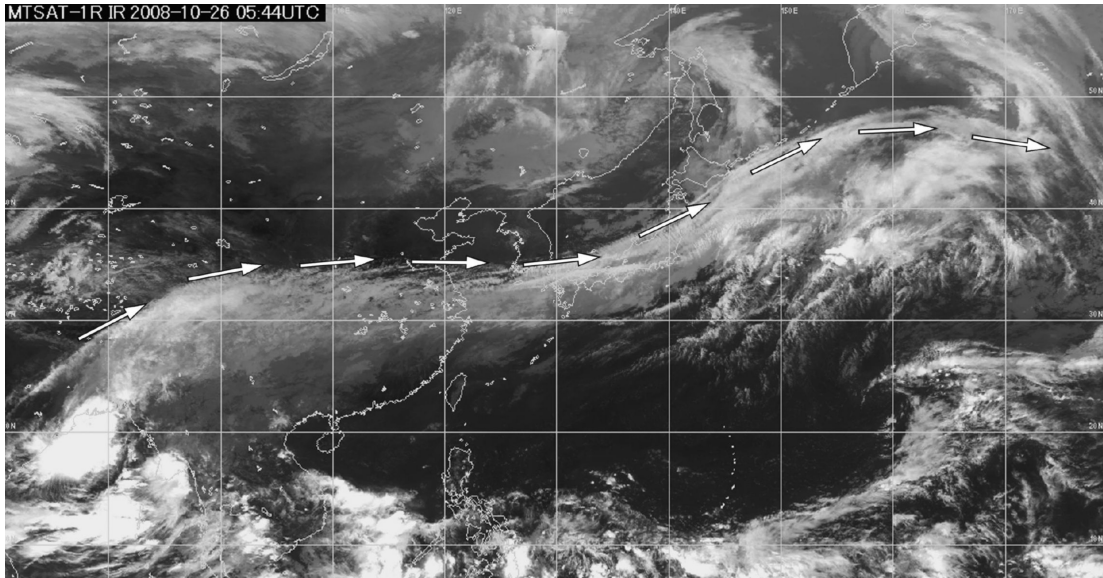
31日(金)九州は冷たい雨

高気圧が東に抜け、日本付近は日中にかけて曇りが広がる。北日本日本海側や九州は、低気圧や前線の接近による雨。熊本県人吉市の最高気温は、平年より8.7°C低い12.1°C。



今月のひまわり画像—2008年10月

9000 km に連なるジェット気流の雲

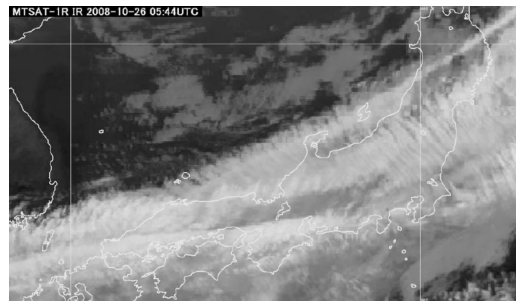


第1図 2008年10月26日15時 (JST) の赤外画像 矢印は300 hPaの強風軸。

10月はジェット気流が日本の上空を通り、ジェット気流による雲で曇りになる日が多かった。

第1図は10月26日15時 (日本時間) の赤外画像である。画面左下のベンガル湾には熱帯低気圧の積乱雲域があり、そこから千島列島まで約9000 km にわたって連続した帯状の雲域 (雲バンド) が伸びている。この雲バンドはジェット気流に伴うもので、雲バンドの下に位置する九州地方から東北地方南部にかけては、一日中曇りや雨の天気となった。

第1図の雲バンドを見ると、北側に上層雲が多く分布している。この上層雲域は「Ciストリーク」と呼ばれ、細長く筋状をした巻雲 (Ci) が上層の流れに沿って現れた雲パターンである。特にジェット気流が存在するとき出現しやすい。Ciストリークで、縦縞模様をした小さな波状の雲列を持つものを「トランスバースライン」と呼び、風速が80 kt (約40 m/s) 以上で出現すると言われている。トランスバースラインの近傍では、乱気流の発生頻度が高いので航空機にとって警戒を要する雲パターンである。第1図の矢印



第2図 第1図の日本付近の拡大画像。

は、同日00 UTC と12 UTC の300 hPa 天気図 (図は省略) から推定した06 UTC の強風軸の位置と方向であり、Ciストリークの北縁とよい対応を示している。第2図は、第1図の日本付近を拡大したもので、Ciストリークは小さな波状の雲列を持ちトランスバースラインとなっているのがわかる。

(気象庁予報部予報課 小池仁治)